

# PARNASSIUS

No. 43

## 目 次

|                            |               |    |
|----------------------------|---------------|----|
| 淡路島南部で注目される蛾 (II) .....    | 藤 平 明 .....   | 1  |
| コムラサキを発見 .....             | 交 告 尚 史 ..... | 2  |
| トゲナナフシの生息記録 .....          | 登 日 邦 明 ..... | 2  |
| 兵庫県のサシガメ・マキバサシガメ (2) ..... | 高 橋 壽 郎 ..... | 3  |
| ブドウトラカミキリの採集記録 .....       | 堀 田 久 .....   | 10 |
| クロハナムグリの採集記録 .....         | 堀 田 久 .....   | 10 |
| クロコノマチョウについて .....         | 谷 川 大 海 ..... | 11 |

淡 路 昆 虫 研 究 会

ENTOMOLOGICAL ASSOCIATION OF AWAJI

HYOGO JAPAN

February 1996

1221

1



## 淡路島南部で注目される蛾 (II)

藤 平 明<sup>1</sup>

10. オスグロホソバアツバ *Hypena lignealis* Walker  
Apr.15.1995 (南淡町灘大川) [灯] 越冬个体か。  
四国、九州に産し本州では福井県より記録がある。最近の報告では、愛知 (1988)  
三重 (1991) から記録されている。
11. シラオビキリガ *Cosmia camptostigma* (Ménétrières)  
Jun.28.1995 (南淡町大日ダム) [灯]  
北海道から本州に産し、中国地方まで記録があるが、やや局地的。四国、九州か  
らは未知。
12. ヤマトホソガ *Lophoptera hayasi* Sugi  
Oct.21.1995 (南淡町大日ダム) [灯]  
この亜科中日本に土着する唯一の種。本州中部以西、四国、九州にいたる本土域  
と対馬及び屋久島にも産する。7~10月に出現する。いずれの地域でも稀な種。

### 〔北方系の種〕

1. ツマグロギンハマキ *Groesia blanda* Yasuda  
Jun.8.1994 (南淡町灘大川) [灯]  
北海道から本州にかけて分布する日本固有種。
2. マダラギンスジハマキ *Pseudargyrotoza aeratana* (Kennel)  
Oct.15.1995 [灯]  
北海道から本州中部にかけて分布するが少ない種。熊本県 (1984) から報告が  
あり、旧ソ連 (ウスリー) から知られている。
3. ハンノメムシガ *Epinotia tenerana* (Denis & Schiffermuller)  
Jun.9.1961 (南淡町阿万上町) [灯]  
北海道、本州 (東北及び中部山地)、四国 (剣山) に産する。
4. クサビホソハマキ *Stenodes jaculana* (Snellen)  
Sep.1969, 1ex. Sep.19.1973 2ex. [灯]  
既知産地は北海道、本州、四国 (山地)、朝鮮、中国、旧ソ連 (アムール、シベ  
リア) など。8月~9月に出現するが個体数は多くなく、南淡町では上記以外の記  
録はない。
5. ナラクロオビキバガ *Telphusa necromantis* Meyrick  
May.27.1995 (南淡町大日ダム) [灯]  
北海道、本州に分布、海外では中国にも分布。
6. ニッコウトガリバ *Epipsestis nikkoensis* (Matsumura)  
Nov.19.1990 (南淡町阿万上町) [灯]  
東北、関東から中部山地にかけて秋に出現。香川県小豆島からも記録されている。
7. ウスイロトビスジナミシャク *Costacovera caespitaria* (Christoph)  
Mar. 中旬 1961 (南淡町阿万上町) [灯]  
北海道、本州、四国、シベリア東南部に分布。近畿地方では大阪・兵庫県柏原な

1: 〒656 07 三原郡南淡町阿万上町 794

どで採集されているが少ない。

8. ソトムラサキコヤガ *Maliattha bella* (Staudinger)

May.29.1994, Sep.8.1994 (南淡町大日ダム) [灯]

主として北海道から本州中部にわたって分布。他に山口県 (1993 年)、香川県から得られている。

(ふじひら あきら)

## コムラサキを発見

交 告 尚 史<sup>2</sup>

1995 年の夏も数日間を淡路島で過ごしたが、その間に 3 度コムラサキを発見したので報告しておきたい。発見地はいずれも洲本市宇山で昨夏 1 頭採集した地点の南約 50 メートルの所である。本誌 41 号 14 頁の地図を参照していただきたい。なお今回は観察のみで採集はしていない。

1995 年 8 月 13 日 10 時 15 分ごろ

8 月 16 日 9 時 20 分ごろ, 10 時 20 分ごろ

発見したコムラサキはいずれもオスであったが、同一個体かどうかは分からない。

(こうけつ ひさし)

## トゲナナフシの生息記録

登 日 邦 明<sup>3</sup>

筆者は先に津名町大町でトゲナナフシ *Neohirasea japonica* を採集したが (本誌 No.31), その後も 1990~1995 年にかけて津名町大町の前回採集したのと同じ場所で 7 回にわたり合計 8 頭の本種を発見し、観察や写真撮影等を行った (うち'95 年 8 月 28 日には 1 頭採集)。

本種は淡路島では珍しい種で、他に洲本市北谷より記録されているのみであるが、津名町大町ではその出現頻度から、かなり安定した状態で生息しているものと考えられる。

(とび くにあき)

2: 〒225 横浜市青葉区黒須田 32-12 ファミーユあざみ野 405

3: 〒656-21 兵庫県津名郡津名町大町畑 2 3 5

## 兵庫県のサシガメ・マキバサシガメ (2)

高橋 壽郎<sup>4</sup>

### Subfamily Reduviinae

#### 10. *Acanthaspis cincturus* Stål, 1859 ハリサシガメ

体長 14.5~16mm とやや大型のカメムシであり、幼虫はアリを嗜食し、その死体を背負う性質があることが記録に見られる。兵庫県下では個体数をそれほど見られない種である。あまり注意されないからとも考えられる。分布は本州、九州と中国が知られている。神戸市内では8月末から11月頃まで見られる。

産地：神戸市下谷上 (lex., 29・VIII・1979)、垂水 (lex., VIII・1975)、鳥原 (lex., 2・IX・1978 etc.)、御影〔柳, 1937〕。

#### 11. *Reduvius humeralis* (Scott, 1874) クビアカサシガメ

体長 13~16mm。光沢のない黒色で長軟毛を密生する。前胸背の後半が暗褐色でその中央に黒い横帯がある。前翅革質部の基部も暗赤色。コナラ、クヌギなどの樹上で生活し、鱗翅類の幼虫などを捕食する。兵庫県下には広く分布している。

産地：川西市箕部〔仲田, 1978〕。神戸市逢山峡 (lex., 1・VII・1986, etc.)、有馬温泉神社境内〔新家, 1994〕。飾磨郡雪彦山 (lex., 14・VII・1967)。神崎郡大河内町川上 (lex., 18・VI・1977 etc.)。宍粟郡福知溪谷 (2exs., 20・VI・1976)、音水 (lex., 20・VII・1969)。氷上郡山南町 (lex., 11・VII・1990)。朝来郡須留ヶ峯 (lex., 31・VII・1975, M. Yuna leg.)。美方郡扇ノ山〔高橋, 1975〕

### Subfamily Stenopodinae

#### 12. *Oncocephalus assimilis* Reuter, 1882 トビイロサシガメ

体長 15~17mm。一様に淡い黄褐色。翅に黒褐色の斑紋がある。前胸背側角は鋭角的に尖り、前脛節中央の暗色環は中央より基部よりにある。

地表性で植物の根ぎわや石の下などで生活しており、灯火に飛来する。

兵庫県下に広く分布しているが必ずしも個体数は多くないように思われる。

産地：洲本市宇山〔前川, 1989〕。川西市大和〔仲田, 1978〕。伊丹市〔河上, 1985〕。宝塚市武庫川町〔新家, 1986。東, 1992〕。西宮市岡田山〔前多 他, 1974〕。神戸市高取山〔高橋, 1942〕。加西市畑 (lex., 23・VI・1974 etc.)。佐用郡〔井口, 1908〕。多紀郡丹波大山 (lex., 8・VI・1985, T. Ito leg.)。氷上郡〔山本, 1954, 1958〕。美方郡扇ノ山〔黒田, 1964〕

#### 13. *Oncocephalus breviscutum* Reuter, 1882 クロトビイロサシガメ

本種はかなり記録の見られないサシガメである。加藤正世博士により原色で図説されたものがあるが (1932) その他に図説されたのはほとんどないように思われる。

兵庫県下の記録も大変少なく記録地もやや限定されているように思う。

産地：川辺郡神津村軍行橋、武庫郡山田村箕谷、武庫郡本山村、六甲山麓土橋、摩耶山高雄〔谷口, 1938〕。宝塚市武庫川町 (宝塚大橋)〔新家, 1986。東, 1992〕, (lex., 1・X・1987, M. Niinomi leg.)

#### 14. *Oncocephalus femoratus* Reuter, 1882 モモブトトビイロサシガメ

トビイロサシガメによく似ているが前脚の腿節が著しく太く短い。前胸背の側角は尖らず丸みがある。地表性で海岸の植物の根元や、石の下などで生活し、成虫で越冬する。

<sup>4</sup> 〒652 神戸市兵庫区水室町 1丁目44

兵庫県下での記録は大変少ない。

産地：洲本市安平町〔前川，1989〕。神戸市東垂水〔日浦，1977〕

15. *Oncococephalus* sp.

産地：三原郡阿万西町〔友国，1974〕

16. *Pygolampis congnata* Horváth, 1899 ホソサシガメ

一様に暗褐色で顕著な斑紋はない。前・中脛節は黄褐色で基部と先端および中央の環状紋は暗色，体は後方に広がり，腹部第6節で最も広い，雑草間の地表にすむ。兵庫県下での記録があまり見られない種。

産地：加西市畑 (1ex., 29・VI・1974)。佐用郡〔井口，1908〕。氷上郡〔山本，1954, 1958〕。出石郡出石町〔高橋，1965〕

17. *Staccia diluta* (Stål, 1859) ヒメトビサシガメ

淡褐色で，頭部，前胸背，前脚などに判然としないやや暗色の斑紋がある。頭部前方下面に下向きの3対の棘状突起。また胸部前側縁に前向きの大きい刺状突起がある。雑草におおわれた地表にすみ，灯火に飛来するといわれている。兵庫県下の記録は筆者が灯火で採集したものがあるだけである。

産地：加西市畑 (4exs., 29・VI・1974, 1ex., 27・VI・1974)

Subfamily Emesinae

18. *Empicoris rubromaculatus* (Blackburn, 1889) マダラカモドキサシガメ

体肢ともに細長く暗褐色の地に淡色紋がある。叢間あるいは山地に放置された柴束の下で発見されるといわれているが見つめるのはそう楽ではない。個体数はそれほど多くないのかもしれない。

産地：洲本市三熊山〔友国，1973〕。神戸市鳥原 (1ex., 1・IX・1982)。氷上郡柏原〔山本，1954, 1958〕

19. *Gardena brevicollis* Stål, 1871 セスジアシナガサシガメ

本種については黒佐和義博士の全国的視野にたつての解説がある〔Rostria, No.6, 1963〕。

兵庫県下での記録も同博士によるもの以外知られていない。

産地：尼崎市，養父郡氷ノ山〔黒佐，1963〕

20. *Myiophanes tipulina* Reuter, 1882 ゴミアシナガサシガメ

淡褐色の地に濃淡の斑紋があり長い毛でおおわれる。家屋内外で発見されることが多いとあるが一般にお目にかかることが少ないように思われる。

産地：伊丹市〔河上，1984〕。神戸市有馬温泉神社〔東，1992〕。高取山〔高橋，1942〕。佐用郡〔井口，1908〕。氷上郡柏原，黒井〔山本，1954, 1958〕

21. *Schidium marcidum* (Uhler, 1896) アシナガサシガメ

体肢ともに非常に細長く無翅。淡黄褐色であるが頭側，胸側に暗褐色縦溝があり，胸部背面正中線は細く紅色，腹背に紅色3縦条がある。丈の高い雑草あるいはササ藪の地表部に生息し動作は緩慢。兵庫県での記録もいがい少ない。

産地：播磨〔松村，1913。福井，1926〕。佐用郡〔井口，1908〕。宍粟郡音水 (1ex., 21・VII・1975)。氷上郡柏原，妙高山〔山本，1954, 1958〕

Subfamily Ectrychodiinae

22. *Ectrychotes andreae* (Thunberg, 1784) ビロウドサシガメ

頭部と胸部が藍色を帯びた黒色，光沢が強い。前翅は黒色で基部のみ黄色，腹部結合版は赤色で第4～6節の後半が黒い。

体長 11-14mm. 植物の根ざわや落ち葉の下で生活し、昆虫類や多足類などの小さい動物を捕食する。

兵庫県下には広く分布している。

産地：洲本市安平〔前川，1989〕。宝塚市宝梅 1 丁目，北部西谷西部〔東，1992〕。神戸市鳥原 (lex., 3・X・1976, etc.)，高取山〔高橋，1942〕。明石市明石公園 (lex., 7・VII・1979 etc.)。飾磨郡家島 (lex., 26・V・1978)。佐用郡〔井口，1908〕。大撫山 (lex., 6・XII・1975)。氷上郡〔山本，1958〕。城崎郡今津〔高橋，1975〕。出石郡但東町久畑〔高橋，1965〕。

23. *Haematoloecha delibuta* (Distant, 1883) クビアカサシガメ

前胸背前葉が黒色，革質部前縁と爪状部基部が朱紅色，小循環板後端の 2 個の突起が短い。

体長 9-10.5mm. 山地の草間地上，コケの間で発見され，初夏の頃飛翔することが多い。

兵庫県下にも割合と広く分布しているようである。

産地：川西市笹部〔仲田，1978〕。宝塚市切畑 (lex., 18・II・1979)，西谷西部〔東，1992〕。神戸市藍那 (lex., 3・V・1963)，鳥原 (lex., 26・IV・1984)，逢山峡 (lex., 13・V・1962)。多可郡鳥羽 (4exs., 29・IV・1972)。佐用郡大撫山 (lex., 15・III・1975 etc.)。多紀郡篠山 (lex., 17・IV・1976)。氷上郡〔山本，1954, 1958〕。城崎郡三川山〔高橋，1975〕。

24. *Haematoloecha nigrorufa* (Stål, 1866) アカシマサシガメ

黒色の地に赤色の斑紋がある美しい種である。前胸背は赤色で前葉は後葉より多少淡い。腹部の側縁は黒と赤のだんだら模様になっている。

地表性で植物の根ざわや石の下などから発見される。ヤスデ類を好んで捕食する。県下に広く分布しており個体数も多い。

産地：洲本市安平〔前川，1989〕。川辺郡猪名川町木間生〔仲田，1978〕。川西市大和〔仲田，1978〕。伊丹市〔河上，1985〕。宝塚市切畑 (2exs., 18・II・1979)，北部西谷切畑-猪淵-猪名川，東洋町武庫川〔東，1992〕。神戸市鳥原 (lex., 9・V・1970 etc.)，藍那 (2exs., 3・V・1962, etc.)，高取山〔高橋，1942〕。白川 (2exs., 23・XI・1956)，垂水 (lex., 11・VI・1985)。明石市明石公園 (lex., 15・VI・1975 etc.)。江井島 (lex., 20・IX・1975)。加東郡社町三草 (lex., 7・V・1987)。相生市三濃山 (lex., 28・IV・1984)。佐用郡〔井口，1908〕。出石郡但東町奥赤〔高橋，1965〕。氷上郡〔山本，1954, 1958〕。豊岡市〔高橋，1975〕。

25. *Haematoloecha rufescens* Distant, 1883 アシマダラアカサシガメ

福井玉夫博士による図説がある (昆虫 Vol.2, No.1, p.11, pl.2, f.15, 1927)。アシマサシガメによく似ている。よくわからない種である。県下の記録も次の 1 例を知るのみである。

産地：氷上郡柏原〔山本，1958〕。

26. *Labidocoris insignis* Distant, 1883 クロバアカサシガメ

帯褐黒色に朱紅色の部分混えた美麗種。あまり多い種ではない。

産地：洲本市先山〔堀田，1978〕。川西市笹部 (lex., 31・V・1975, A. Igarashi leg.)。神戸市山の街 (lex., 13・VI・1954)。宍粟郡音水 (lex., 31・V・1970)。氷上郡妙高山〔山本，1958〕。城崎郡城崎町 (lex., 25・X・1978)。

Subfamily Peiratinae

27. *Peirates cinctiventris* Horváth, 1879 クロサシガメ

体は一様に黒く，前翅が褐色で基部に向かいしだいに黄褐色となる。全身金色の

短い毛でおおわれている。クロモンサシガメに似ているが、前翅膜質部に黒い大きな紋を持たないので区別ができる。

地上で生活し、ゴミムシやその他の小さい昆虫を捕食する。刺されると激しい痛みがある。灯火に飛来する。

兵庫県下には広く分布しているがクロモンサシガメよりは少ない。

産地：西宮市岡田山〔前多 他, 1974〕。神戸市鳥原 (1ex., 23・IX・1977 etc.)、逢山峡 (2exs., 13・V・1962)、学園都市 (1ex., 10・V・1985)、多可郡市原 (1ex., 24・IX・1972)、加東郡社町三草山 (1ex., 16・IV・1987)、赤穂郡天和 (3exs., 25・IX・1974)、佐用郡〔井口, 1908〕、大撫山 (2exs., 25・IV・1976)、養父郡氷ノ山 (1ex., 15・IX・1973, K. Tsuji leg.)、美方郡浜坂 (5exs., 17・X・1978)。

28. *Peirates turpis* Walker, 1873 クロモンサシガメ

体は一樣に黒く、前翅の革質部の内半が黄褐色を帯び、膜質部に大きい黒い紋がある。

地表性で植物の根ぎわや石の下で生活し、ゴミムシやヒシバツタなどの昆虫を捕食する。刺されると激しい痛みがある。

兵庫県下に広く分布し個体数も多い。

産地：洲本市安乎町〔堀田, 1975〕。宝塚市南口2丁目〔新家, 1986〕。安倉, 北部西谷〔東, 1992〕。神戸市再度山 (1♂, 1♀, 10・VI・1979)、藍那 (1ex., 5・VI・1978 etc.)、鳥原 (1ex., 11・VI・1967 etc.)、逢山峡 (1ex., 1・VII・1986)、多井畑 (1ex., 19・VI・1990 etc.)、明石市中八木町屏風ヶ浦 (1ex., 6・VII・1982)、加東郡社町三草 (1ex., 6・VII・1989)、龍野市神岡町 (2exs., 13・VI・1988)、揖保郡新宮町福原 (1ex., 22・V・1992)、宍粟郡音水 (1ex., 25・VI・1972)、氷上郡〔山本, 1954, 1958〕、山南町 (1ex., 5・VII・1990)、出石郡出石町寺坂〔高橋, 1965〕。城崎郡日高町奈佐路 (1ex., 22・V・1986, etc.)、豊岡市内〔高橋, 1975〕。美方郡扇ノ山〔高橋, 1975〕。

29. *Sirthena flavipes* (Stål, 1855) キイロサシガメ

体は褐色を帯びた黄色で、前胸背後葉、小循環板、基部と翅端を除く前翅は黒褐色、頭部は前方に突出している。地表性で特に湿った所に多いといわれている。灯火にもよく飛来する、刺されると激しい痛みがある。

兵庫県下に広く分布している。

産地：洲本市安乎町〔堀田, 1975, 前川, 1989〕。川西市見野、笹部〔仲田, 1978〕。伊丹市〔河上, 1984〕。宝塚市武庫川町〔新家, 1986〕。北部西谷西部〔東, 1992〕。加西市畑 (1ex., 21・VI・1975)、佐用郡〔井口, 1908〕。氷上郡〔山本, 1954, 1958〕。出石郡出石町〔高橋, 1965〕。豊岡市板江、妙楽寺〔高橋, 1975〕。

Subfamily Holoptilinae

30. *Ptilocerus inmitis* Uhler, 1896 フサヒゲサシガメ

淡黄褐色で光沢があり、極めて長い同色の剛毛でおおわれる。わりと小さい種で (体長6~7mm)。松の樹皮下で群生シアリを捕食するといわれておりもっと記録があると考えられるのだが県下から全く記録がない。調査が足りない種である。

産地：神戸市鳥原 (1ex., 28・V・1976)。

Family Navidae マキバサシガメ科

Subfamily Prostematinae

1. *Prostemma hilgendorffi* Stein, 1878 アシブトマキバサシガメ



通常短翅型であるがときに長翅のものも現れる。乾燥した草地の地表や石の下などで生活し小さい昆虫を捕食する。そんなに普通に見られない。

産地：津名郡北淡町常隆寺 (lex., 20・IV・1974)。神戸市鳥原 (lex., 7・VIII・1977 etc.)。高取山 (高橋, 1942)。氷上郡市原 (山本, 1958)

2. *Prostemma kiborti* (Jakovlev, 1889) キバネアシブトマキバサシガメ

地表の石の下に生活しているがきわめて珍しい種であるとされている。神戸市内などではわりと眼にすることが出来る。

産地：宝塚市武庫川町武庫川、美座1丁目武庫川 (新家, 1994)。神戸市鳥原 (lex., 27・VI・1979 etc.)。伊川谷 (lex., 19・V・1988)。佐用郡 (井口, 1908)

Subfamily Nabinae

3. *Arbela tubida* (Uhler, 1896) ホソマキバサシガメ

宮本正一博士による原色での図説がある (1965)。兵庫県からは次の記録を知っているだけである。

産地：氷上郡 (山本, 1954, 1958)

4. *Gorpis brevilineatus* (Scott, 1874) アカマキバサシガメ

赤褐色で長毛を装う。山地の灌木の葉上で発見される。兵庫県下ではわりと見られる種である。

産地：宝塚市中筋天神川谷 (新家, 1986, 東, 1992)。神戸市保久良山 (lex., 12・V・1978)。鳥原 (lex., 9・V・1976 etc.)。石井ダム (lex., 18・X・1991, etc.)。藍那 (lex., 14・V・1967)。谷上 (2exs., 29・IV・1958)。伊川谷 (lex., 19・V・1988)。高取山 (高橋, 1942)。太山寺 (lex., 17・V・1990)。多井畑 (lex., 23・V・1990)。八多町屏風 (lex., 12・V・1993)。多可郡笠形山 (lex., 12・VI・1975)。神崎郡大河内町川上 (lex., 7・V・1977)。揖保郡新宮町福原 (2exs., 17・IX・1992)。相生市三濃山 (lex., 6・V・1973)。宍粟郡三谷 (2exs., 17・VII・1981)。音水 (lex., 21・V・1972)。氷上郡 (山本, 1954, 1958)。

5. *Gorpis japonicus* Kerzhner, 1968 ベニモンマキバサシガメ

淡い黄褐色に紅色の斑紋がある。一見弱々しいが美しい種類である。本種については筆者が報告したことがある (1991)。兵庫県下では現在次の産地が知られているだけである。

産地：氷上郡山南町 (lex., 6・IX・1990)。

6. *Himacerus apterus* (Fabricius, 1798) ハラヒロマキバサシガメ

一様に暗褐色で前胸背後葉と前翅は淡色、体の後ろになるほど幅が広がっている。♀は特に腹部が幅広く、側方に張り出している。一般に短翅型であるがまれに長翅型が生ずる。

山地の草むらや灌木で生活しているようで兵庫県下では広く分布している。

産地：川辺郡猪名川町槻並 (lex., 4・V・1979)。西宮市船坂 (4exs., 21・V・1987 etc.)。盤滝 (2exs., 22・V・1987)。神戸市鳥原 (lex., 27・VII・1975 etc.)。多可郡三谷 (lex., 9・VI・1973)。神崎郡大河内町川上 (lex., 14・V・1977 etc.)。相生市三濃山 (lex., 7・V・1972 etc.)。宍粟郡原 (2exs., 11・V・1979)。音水 (2exs., 10・V・1970 etc.)。赤西 (2exs., 3・VI・1979)。坂ノ谷 (lex., 9・VI・1973)。

7. *Nabis (Milu) apicalis* (Matsunura, 1913) コバネマキバサシガメ

濃褐色で暗色の小さい斑紋が散在する。背面は微毛でおおわれる。山地の草むらで生活し小さい昆虫を捕食する。

県下ではあまり注意されていないのか産地が知られていない。

産地：神戸市高取山 (高橋, 1942)。明石市中八木屏風ヶ浦 (lex., 5・X・1982)。

- 揖保郡新宮町福原 (1ex., 7・V・1992). 佐用郡〔井口, 1909〕. 氷上郡〔山本, 1954, 1958〕
8. *Nabis fesus* (Linnaeus, 1758) オオマキバサシガメ  
兵庫県下から次の記録を知るのみである.  
産地: 豊岡市〔高橋, 1975〕. 出石郡出石町〔高橋, 1965〕
9. *Nabis stenoferus* Hsiao, 1964 ハネナガマキバサシガメ  
体は淡灰褐色で正中線上に暗色の条がある. 草むらや畑作物の上で小さい昆虫を捕食する. 夜間燈火にも飛来する.  
兵庫県下には広く分布しているように思われる.  
産地: 津名郡北淡町富島〔川沢, 1974〕. 洲本市生石〔川沢, 1974〕. 安乎〔前川, 1989〕. 西宮市岡田山〔前多 他, 1974〕. 神戸市下谷上 (1ex., 23・VII・1979). 鳥原 (1ex., 6・VII・1990). 押部谷 (1ex., 23・V・1989). 藍那 (1ex., 26・VIII・1993). 三木市内 (1ex., 28・VII・1978). 美養郡吉川町 (1ex., 19・IX・1985). 加西市畑 (7exs., 29・VI・1974, etc.)

以上兵庫県に産するサシガメとして 30 種, マキバサシガメ 9 種について県下における分布状況を中心にまとめてみた. まだまだサシガメ科, マキバサシガメ科全般の分類が充分に出来ていなくよくわからない種がいたり新しい種の発見もあるように思われる. 直接我々に関係が無いとしてよく調べられていないようにも思う. より一層きめ細かい調査を続けてゆきたいものだと考えている.

尚文献上で次のサシガメが県下から記録されているが現在どの種に当たるか良くわからない.

*Ectrychotes iguchii* Matsumura, 1913 イグチアカサシガメ 産地: 播州〔井口宗平 採集, 松村, 1913. 福井, 1927〕

## 参 考 文 献

兵庫県産に関するものは研究史を見て頂きたい.

- Distant, W. L. (1902) The Fauna British India, Rhynchota, 1 (Heteroptera)
- Distant, W. L. (1904) Ibid., 2 (Heteroptera)
- Distant, W. L. (1910) Ibid., 5 (Heteroptera: Appendix)
- Dolling, W. R. (1991) The Hemiptera Oxford Univ. Press. 274p. 164figs.
- 江崎悌三 (1932, 1950) 日本昆虫図鑑 (北隆館・東京)
- 江崎悌三 (1955) 学生版原色昆虫図鑑
- 江崎悌三・堀 浩・安松京三 (1939) 原色日本昆虫図説
- 福井玉夫 (1917) 日本産食虫椿象科につき疑問及び卑見 昆虫世界 21(240):311-314.
- 福井玉夫 (1926) 内地産食虫椿象科図説 (1) 昆虫 1(7):7-17.
- 福井玉夫 (1927) 内地産食虫椿象科図説 (2) 昆虫 2(1):1-16.
- 福井玉夫 (1927) 内地産食虫椿象科図説 (3) 昆虫 2(2):71-90.

- G. C. McGavin (1993) Bugs of the World. Blandford, London. 192p. 96color figs.
- T. J. Henry (1988) Catalog of the Heteroptera of North America, North of Mexico. E. J. Brill New York, 958p.
- 平山修次郎 (1933) 原色千種昆虫図譜 (三省堂・東京)
- 平山修次郎 (1937) 原色千種統昆虫図譜 (三省堂・東京)
- 日浦 勇 (1977) 原色日本昆虫図鑑 全改訂新版 下巻 (保育社・大阪)
- 石原 保 (1971) 半翅類, 動物系統分類学 7(FB), 節足動物 (IIIb), 昆虫類 (中) p.285-316 (中山書店・東京)
- 石原 保 監修 (1975) 学研中高生図鑑 昆虫 III(学研・東京)
- 石原 保・宮本正一 (1959) 日本幼虫図鑑 (北隆館・東京)
- 加藤正世 (1933) 分類原色日本昆虫図鑑 第五輯 (厚生閣・東京)
- 川沢哲夫・川村 満 (1975) 原色図鑑カメムシ百種 (全国農村教育協会)
- 黄 其林・田 立新・楊 蓬芳 編著 (1984) 農業昆虫鑑定 B5. 414p. (上海科学技術出版社)
- 松村松年 (1907) 昆虫分類学 (警醒社・東京)
- 松村松年 (1913) 新日本千虫図解 Vol.1 (警醒社・東京)
- 松村松年 (1920) 大日本害虫全書 (六盟館・東京)
- 松村松年 (1931) 日本昆虫大図鑑 (刀江書院・東京)
- 松村松年 (1932) 大日本害虫図説 (明治図書株式会社・東京)
- 松村松年 (1932) 日本通俗昆虫図説 (春陽堂・東京)
- 宮本正一 (1965) 原色昆虫大図鑑 第3巻 (北隆館・東京)
- 宮本正一・安永智秀 (1989) 日本産昆虫類目録 p.164-165, 169-171.
- 宮本正一・安永智秀 (1995) 日本産野生生物目録 (31) カメムシ目 日本野生生物目録 p.148, 150-151.
- J. E. McPherson (1982) The Pentatomoidea (Hemiptera) of Northeastern North America. Southern Illinois Univ. Press. 240p. 191figs.
- Scott, J. (1874) On a Collection of Hemiptera-Heteroptera from Japan. Description of various new Genera and Species. Ann. Mag. Nat. Hist. Ser. Vol.xiv:1-48.
- Scott, J. (1880) On a Collection of Hemiptera of Japan. Trans. ent. Soc. London, 1880, Part.IV:305-317.
- J. A. Slater & R. M. Baranowski (1978) How to know the true bugs (Hemiptera-Heteroptera). Wm. C. Brown Company Pub. Iowa 256p. 496figs.
- 章 士美編 (1985) 中国經濟昆虫志 第31冊, 半翅目 (一)

- 簗 菜瑜等 編著(1981) 中国 類昆虫 定手冊 (半翅目異翅亜目) 第二冊. 611p. 8pls.  
(科学出版社・北京)
- 高良鉄夫 (1957) 琉球産異翅半翅類目録. 琉球大学農家政学部学術報告 No.4:11-90, 2pls.
- 竹内吉蔵 (1955) 原色日本昆虫図鑑 (下)
- 田中三夫 (1939) 朝鮮産異翅目 (其の二) 昆虫界 7(61):1-14.
- 友国雅章 監修(1993) 日本原色カメムシ図鑑 (全国農村教育協会)
- 安松京三・渡辺千尚 編(1964) 日本産害虫の天敵目録 第一編 天敵・害虫目録 (九州大学農学部昆虫学教室)

(たかはし としお)

## ブドウトラカミキリの採集記録

堀田 久<sup>5</sup>

ブドウトラカミキリ *Xylotrechus pyrrhoderus* は、普通種でブドウの害虫でもあるが、淡路島では少ないようである。筆者は北淡町で本種を採集したので報告しておく。

採 集 地 北淡町仁井 1♂

採集年月日 1994 年 9 月 4 日

なお、標本は筆者が保管している。

(ほりた ひさし)

## クロハナムグリの採集記録

堀田 久<sup>5</sup>

クロハナムグリ *Glycyphana fulvistemma* は、これまでに津名町の摩耶山などで採集されているが、淡路島内では少ないようである。筆者は安乎町の自宅で本種を採集したので報告しておく。

採 集 地 洲本市安乎町北谷 1ex.

採集年月日 1995 年 5 月 5 日

なお、標本は筆者が保管している。

(ほりた ひさし)

---

5: 〒656 洲本市安乎北谷 630



## クロコノマチョウについて 谷川大海<sup>6</sup>

前号 (No.42) の続きを報告する。1995 年 3 月下旬の日没時の気温が 11 度を上回る頃から「林の林床」へ越冬成虫の観察に出かけた。4 月下旬になっても姿は見られなかった。5 月 2 日午後 6 時 (室温 22 度)、♂1 頭を目撃する。林床内を活発に飛んで、木の幹に止まったところを採集する。採集するまでは、しばらく観察していたが、テリトリー飛翔のようではなかった。羽は少し傷んで、薄くなっていた。マーキング印はなかった。5 月 20 日午後 2 時 (室温 23 度)、この日は雨の前で曇っていた。待望の♀を採集する。褐色型で、マーキングなし。羽は薄くなっていた。「林の林床」に入るや、驚いて飛び立ち、葉上に止まったところを採集する。マルバヤナギの近くだったので、樹液を吸っていたのかも知れない。

上記 (5 月 20 日採集) の♀で、5 月 20 日から 27 日までの 8 日間で合計 105 卵を得た。また、これらとは別に、5 月 22 日に「林の林床」のススキの葉裏で、4 卵を発見する。1 卵は孵化したばかりのようで、他の 3 卵はその日の夜に孵化した。これらの 4 卵は 5 月 14 日頃に産卵されたものと思われる。4 卵が産みつけられていたススキは、若い柔らかそうな葉であった。他にも探してみたが見つからなかった。

母蝶に産ませた 105 卵は「鉢植ジュズダマ」で飼育した。自然状態で発見した 4 卵は、そのままススキで飼育した。5 月中旬の自然状態ではジュズダマはまだやっと芽をふきかけた状態なので、食草としては使用できない。筆者の「鉢植ジュズダマ」は冬の間、屋内で育てていたもので、5 月中旬には初齢幼虫が食べるには適当な若葉を出していた。幼虫が 3 齢になる頃には、自然状態のジュズダマも成長してきて、食草として使用できた。

飼育は波板 (約 50 % 遮光) 小屋で行った。ジュズダマは鉢植にして接近させ、幼虫が自由に移動できるようにした。できるだけ手を使って移動しない方針で行った。ススキの 4 匹も同様にして飼育した。

ジュズダマ飼育の 105 卵からは、93 頭が羽化。♂45 頭、♀48 頭。すべて夏型。7 月 1 日から 10 日の間で、多くは午前 5 時台に羽化した。蛹化したが羽化できなかったもの、3 匹。

ススキ飼育の 4 卵は途中で 2 匹が姿を消してしまった。他の 2 匹は、蛹化したが、1 頭しか羽化しなかった。♂。夏型。

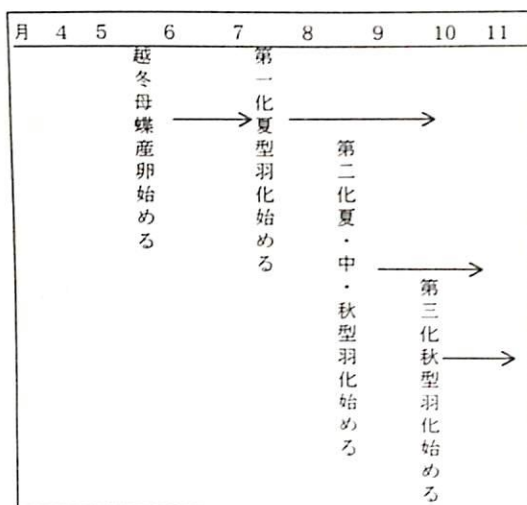
ススキ飼育では 1 頭しか羽化しなかったが、幼虫期間はジュズダマ飼育に比べると 10 日ほど長くかかっている。蛹期はほとんど変わらなかった。

「林の林床」では食草として利用できるものはススキしかない。従って飼育の結果から推測して、「林の林床」では羽化は 7 月中旬以降になるものと思われる。またススキ飼育では羽化率が悪かったので、自然状態でも羽化数が少ないと思われる。

これまでの飼育と観察から「林の林床」およびその付近でのクロコノマチョウの周年経過を図にしてみた。

7 月 1 日から 10 日に羽化した第一化夏型で、ハンドペアリングを試み、7 月 11 日より 14 日までの 4 日間で、合計 95 卵を得た。これらから 8 月 12 日から 16 日までに、合計 22

6: 〒656 洲本市入野 1018-2



頭が羽化した。不思議なことに、すべて♂であった。型は次の通りであった。

夏型 9頭  
 中間型 12頭  
 秋型 1頭

♂しか羽化しなかったが、中間型について述べる。12頭とも翅表も翅裏もあまり変化がなく、それぞれの斑紋もよく似ていた。これは夏型の特徴である。色は第一化夏型のように黒くはなく、薄茶色気味である。第一化夏型♀に近い色である。翅表前翅の小白斑と赤橙色斑に関して

は、小白斑は小さいのが見られる。赤橙色斑は黒色斑紋として現れている。外縁の突出は秋型ほどではないが、はっきりと現れている。秋型の特徴である。翅裏の斑紋は第一化夏型♀に近いが、より明確である。羽の長さ(体長を含む横幅の半分)は

第一化夏型♂10頭の平均 40.1mm

今回第二化中間型♂10頭の平均 43.2mm

であった。秋型は中間型よりもさらに長いので、この点でも中間型である。

また今回羽化した第二化夏型♂9頭の羽長の平均は 40.7mm だった。よって♂については

第一化夏型

第二化夏型

第二化中間型 の順に長くなっている。

今回の飼育結果から判断すると、中間型を経て、夏型から秋型へ少しづつ移行が行われると思われる。夏型は個性が少なく、秋型は個性的である。

(たにがわ だいかい)

## 編集後記

▽ 遅くなりましたが43号をお届けします。本会も本年で創立30年になります。何か記念事業をと思っていますが、震災の後始末が残っていますのでどうなりますか？  
 本年度の会費も2000円です。同封の振替用紙で早めをお願いします。(TB)

### PARNASSIUS No.43

1996年2月19日印刷 1996年2月23日発行  
 編集者 登日邦明 発行所 淡路昆虫研究会  
 〒656-21 兵庫県津名郡津名町大町畑235  
 郵便振替 神戸 7-49591

印刷所 れいめい社

〒656 兵庫県洲本市本町5丁目1-24

